



「ヘンリー八世」地誌考(後篇)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 室蘭工業大学 公開日: 2014-06-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 竹内, 豊 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/3365

「ヘンリー八世」地誌考（後篇）

竹 内 豊

Shakespeare's Place-Names Commentary
Henry VIII (Part II)

Yutaka Takeuchi

29 Kildare II. I. 41 53.10 N 6.55 W

アイルランド語でキル・ダラ Cill Dara。アイルランド共和国レンスター県 Leinster の一州。主都も Kildare でこれも同じくアイルランド語で Cill Dara。首都ダブリン Dublin の南西約 50km にある。この地には 5 世紀に聖ブリジッドによって建てられた教会がある。今日アイルランドの守護神となっているブリジッド Brigid(または Bridget, Brigit, Brighid, Bride, Brigida, Brigitta) は 451 年から 453 年の間にアイリッシュ海 Irish Sea のダンドーク湾 Dundalk Bay の口にあるダンドーク Dundalk (アイルランド語で Dun Dealgan) の近くで山賊の女奴隷の子として生まれたが、レンスター県の王の力で自由の身となったといわれる。聖パトリック Patrick (ca. 387~ca. 461) に深く師愛した。ブリジッドがこの町に建てた女子修道院はアイルランドの宗教と学問の中心となった。彼女は 523 年の、あるいは 525 年の 2 月 1 日にこの地で没し、その日がその祝日 St. Brigid's Day となっている。パトリックについてのアイルランド守護聖人である。

30 Lincoln II. IV. ト書 53.14 N 0.33 W

ローマ占領時代にはリンドム Lindum とよばれた。ローマ皇帝クラウディウス Claudius¹⁾が 43 年にブリテン島に親征したが、その 7 年後の 50 年にこ

のリンドムにローマ第9軍団の駐屯地が設けられた。この駐屯部隊は60年頃ローマに対して一大叛乱を起したイケニ王国Iceniの女王ボウディッカBoudicca²⁾の鎮圧に成功はしなかったが勇敢にその叛乱地に向ったのが紫と白の軍服をつけたこのリンドム駐屯の第9軍団ヒスパナ Legio IX Hispanaの精鋭であった。ロンドンから約209km, 汽車で約2時間半のところに位置する。リンドムの名の由来はローマ時代より更に早くケルト語で *Lindon* とよばれていた。語の前半は *lyn*=pool, lake という地勢上から生じたもので、ノーフォーク州のキングズ・リム King's Lynn 市も同じである。この池・湖の意



味は、*Lindon* の場合はこの辺りを流れるウィタム川（またはウィザム川）*Witham* の川幅が広がったことを示したことに発している。語の後半も同じくケルト語で小山の砦 *hill fort* を意味するが、正しくこのリンカン市は高さ約 63 m の丘の中腹に建っている。ローマ時代こゝに植民市が建設されたことから *Lindum colonia* とよばれ、これが縮って今日の *Lincoln* になったのであるが、その間の変遷は次のように記録される。ベーターはその『英国国民教会史』 *Bede's Ecclesiastical History of the English Nation* の中で *Lindocolina* (ca. 730 年), 『アングロ・サクソン年代記』(注 17 参看)は *Lindcylene* (942 年), そして *Domesday Book*³⁾ には *Lincolnia* (1086 年) と記録されてきたのである。

ローマ人の後にはサクソン人、デーン人もこゝに拠った。ノルマン人の征服の後、ウィリアム征服王は 1068 年に早くもこの地を戦略上要衝な地としてここに城を築いた。またリンカンは当時既にロンドン、ウィンチェスター(第 38 項参看), ヨークにつぐ重要都市であり, 13 世紀頃にはロンドン, ヨークにつぐ大都会(といっても人口 3,000~4,000 人。ただロンドンだけは桁はずれに大きく約 40,000 人)であり, この国 4 番目の海港となっていた。リンカンが海港であったとは驚くことでもあろうが, 正しくその通りであって, このウィタム川の川口のボストン *Boston* は 13 世紀にはイギリス第 2 の海港であったのである。それはこの辺りが沼沢地帯 *Fens* といわれる海拔 0 ないしマイナスのような低い地帯で, その昔は大陸とつながっていたところで, 北海から湾入しているウォッシュ湾 *The Wash* はかつてライン川の三角洲の一部であった。このように地勢が対岸の大陸のオランダに似ているので早くにオランダ人が移住して風車を作り, レースを編むなどオランダ的生活が行われるばかりでなく, 住民にも今もオランダ風の顔立ちが目立つのである。そうしてリンカン州の一部でウォッシュ湾に臨む低地一帯は *Holland* の名とさえなっているのである。

リンカンの町は既述のように小丘の中腹に出来ているが, この町で一番大きなものはリンカン大聖堂 *Lincoln Cathedral* である。これは市内の中心部に

して、しかもどこからでも仰ぎ眺められる位置にあって、ウィリアム征服王の築いた城と対峙する恰好で建てられている。大聖堂の祖たるものは1075年～1090年頃司教レミギウス Remigius⁴⁾によった初期ノルマン式教会であった。1141年の火災後司教アレクサンダー Alexander⁵⁾の手で後期ノルマン式に建て代わったが、1185年の地震で完全に破壊された。しかしこれは一つの聖堂を全く新しく建直す機会となった。時の司教ヒュー Hugh⁶⁾の計画によって1192年再建・拡張が始められ、1世紀以上の歳月と莫大な金、それに人足が費されて1307年完成した。これによりヒューの名は英国建築史上にも偉大な建築家の一人として留まることとなった。特に「聖ヒューの合唱席」Choir Stalls と、一対の塔とその背後に更に一つの大きな塔が加っての3つの塔が小高い丘に天を指す西正面は圧倒的景観を呈し、全体はノルマン様式の構想の中にもすぐれたゴシックの初英式 Early-English と文飾式 Decorated を有し、主塔の高さは約89mとやや低いがいギリスでも最も雄大な聖堂の一つとなっている。ゴシック建築に見られる鬼・怪獣の形の屋根の水の「落し口」(「樋の口」) Gargoyle の中にはフラー Fuller⁷⁾によると「ひどくこわい、いかめしい顔付きでリンカンの町を見下している悪魔」‘Devil looking over Lincoln with a torve and tetrick countenance’もある。

リンカンは昔ロビン・フッド Robin Hood⁸⁾の一味が着用したことで名高い鮮緑色のラシャ、いわゆるリンカン・グリーン Lincoln green を産したところでもある。

31 Ely II. IV. ト書 52.24 N 0.16 E

語源は OE *ælgé, élgé* = eel district。ベーターは『英国民教会史』の中で「湿地帯で獲れる沢山のウナギからイーリィの名は生まれた。‘*Ēlgé*’が早い時代に ‘*éleg*’, すなわち ‘eel island’ (ウナギの島) となった」(4-19) と述べている。

ケインブリッジ市から北へ約26km、ウーズ川 Ouse⁹⁾ というよりももう既に上流となってケインブリッジ川となっている川の左岸(西側)に位する

小さな町である。リンカンの町と同じように今日 Isle of Ely なる名は単なる行政上の一区劃を示す名であるが、その昔にはその名の通り一帯沼沢の中の島で、イーリィの僧院は船で渡ったと記録されている。この地方は今日こそ海から離れていてリンカンの場合と同じように意外と思えることであるが、イーリィより更にあれ程内陸に引込んでいるケインブリッジでさえかつては海と結んでいた港であった。さてこの町は大聖堂の町でそれはほんの小高い丘にありながら辺りを睥睨し、その規模の大きさと建築学上の特色で有名である。全長ではウィンチェスター大聖堂の約 158 m に次いで第 2 位の約 156 m である。因みに英国国教の総本山であるカンタベリ大聖堂の全長は約 155 m、カンタベリに次ぐ北の総本山ヨーク大聖堂のは約 146 m である。

大聖堂の原型は 673 年世を厭い人を避け俗界の関心を去って、ただキリストの教えに籠ろうとして、この尼僧院長となったエゼルスリス Ethelthryth¹⁰⁾ がここに修道院を建設したのによっている。1081 年ウィリアム征服王によってこの修道院長に任ぜられた高僧にして大建築家のスィミオン Abbot Simeon が 1083 年聖堂の建設を始め、作業は更に引きつがれて大方完成したのは 16 世紀である。それ故に様式もノルマン式、初英式、文飾式、垂直式が渾然一体となってみられる。特に中央の八角塔 Central Octagon は 4 々の大きなアーチからなっていて、ゴシック建築にみられる最も美しく、最もオリジナルな姿を呈している。イーリィの大聖堂もヨーク、リンカン、グラムの大聖堂と同じく西から東にかけて同じ高さの屋根を有し、それが大きな船の走るような、またライオンが凝視したまゝ休んでいるような均整のとれた美しさと雄壮さを表している。

32 Rochester II. IV. ト書 51.24 N 0.30 E

カンタベリ、ドーヴァーに通ずる国道 2 号線をロンドンのハイド・パークを基点としてそこから約 50 km 東南東に下った地で、いわゆる「英国の庭園」The Garden of England¹¹⁾ といわれる美しいケント州にある町で人口約 55,000 (1971)、メドウェイ川 Medway の右岸にあるが、川は丁度ここでこの町

を囲むように蛇行している。43年クラウディウスのブリタニア遠征軍が苦境に追い込まれたのは実にこの川の手前であった。

Rochester はローマ時代ドゥロブリーバエ Durobrivae の名であった。これはローマ人が築いた砦 *duro* = stronghold + *briva* = bridge から出て 'the bridges of the stronghold', 'walled town at the bridges' の意をあらわしていたように古くにローマの橋があった。OE では *Hrofescaster* の名となり、ペーダーは『英国民教会史』に *Hrofaescaestre* と誌している。*Hrofi* はローマ人の築いた砦の意で、それにローマ人の住む町をあらわす *caester* がついたものであり、古くからロンドンとドーヴァーを結ぶウォトリング街道 Watling Street が通っていた要所でもあった。このようにこの辺りはロンドンと大陸とを結ぶケント州の海港と交わる重要な地点であるばかりでなく、地味豊かな「英国の庭園」でもあったので紀元前52年頃ガッリア・ベルギカ Gallia-Belgica（今日のベルギー地方）からこの地に渡ってきたベルガエ人 Belgae の居住地となり、彼等はこゝで農業を営んでいた。また彼等は大陸のガリア人と絶えず連絡をとりローマ反抗に力を貸していたことが紀元前55年のシーザーのブリタニア遠征を導いたといわれる。

またこの地は王政復古によって流浪先きのフランスから帰国するチャールズ二世が1660年5月25日ドーヴァーに上陸し、ロンドンに都入りする5月29日に一泊したところである。また1688年12月23日チャールズ二世の弟で反動・暴虐・専制の限りをつくしたジェームズ二世がフランスへ亡命する船出の地ともなった。更にこの地はチョーサーの『カンタベリ物語』*The Canterbury Tales* の順礼の一行がカンタベリへの4日の行程の2日目の宿をとった町である。

町には11世紀に、正確には1077年3月19日から1108年3月8日のその死までこの地の司教であって、誠実な信仰の他に優れた建築技術を備えたガンダルフ Gundulf¹²⁾がウィリアム征服王の次子で「赤顔」Rufusの渾名をもったウィリアム二世の命で建てたノルマン様式の城がメドウェイ川に面している。これは更にカンタベリの第38代大司教ウィリアム・ド・コーベル

（またはコルベイ）William de Corbeuil¹³の手によって隅塔 Keep が備えられた。その後欠地王ジョン、ヘンリー三世の攻囲にあつて壊われ、エドワード四世が修復したが、間もなく衰廃し、今日では厚さ 3.6 m、高さ 36 m の四角形の隅塔が残る公園となっている。

今一つこの町の建造物に聖堂がある。規模は主塔の高さが約 47 m で他の聖堂に比べると可成り低く（英国で最も高いソールズベリ大聖堂の塔は 125 m）全体に小さいが、カンタベリ大聖堂と同じように 2 つの外陣を備え、またその歴史も古い。604 年この辺りでキリスト教の布教につとめた聖アウグスティヌスのために当時のケント王エセルベルトが建てたのがその最初であったが、後デー人によって一部が壊された。1082 年ガンダルフがこゝに新しい教会堂と修道院を建てた。更に 1114 年にこゝの司教に任ぜられたエルヌルフ Ernulf¹⁴が修葺し完成させた。その後 1125 年から 5 年がかりでノルマン式西正面が、1352 年（1343 年頃ともいう）に中央塔が建造されたが、更にこの塔の上に尖塔が 15 世紀になってつけられた。今日見られる主塔は 19 世紀に旧塔と同じに再建されたものである。

33 St. Asaph II. IV. ト書 53.16 N 3.26 W

北西ウェイルズのフリントシャー Flintshire、クライド川 Clwyd の左岸の人口 2,000 足らずの小村。また英国で最も小さい聖堂がある。この聖堂は 560 年頃この地に司教管区がおかれたに始まる。596 年頃没したといわれるアサフ Asaph（または Asaaf, Assa, Asa）なる修道士が修道院を開き、それが今日の聖堂の基となった。この地の元の名は Llanelwy（語頭の ll の発音はウェイルズ人にしか出来ない）であったが、1100 年頃から St. Asaph の名に変わり、大司教がおかれている。St. Asaph その人の祭日は 5 月 1 日である。

34 Bayonne II. IV. 170 43.30 N 1.28 W

バイヨンヌ。ビスケー湾に面しスペイン国境に近いフランス最南西に位置する港町であり、交通の要所。人口約 45,000（1968）の化学工業都市。ロー

マ時代から開け当時の城壁や中世の城壁も残っている。1199年から1451年までイギリス領であった。

35 Orleans II. IV. 172 47.54 N 1.54 E

オルレアン。フランスのオルレアン県の中心都市で、パリ盆地の南部。パリから南 120 km, フランス最長のロアール川の北岸に、「フランスの庭園」の沃野をひかえ農産物の集散地として発達した町で人口約 95,000 (1968)。ロワール川とセーヌ川の近接する部分で交通の要所・要害の位置ばかりでなく、大西洋からの帆船の遡航が可能であって長い間パリと競い合い、17世紀にはパリを凌いで栄えた町であった。ローマ時代軍道の渡河点として既に栄え、古来戦略的にも重視されたところで、この町の運命がフランスの国運でもあるとさえいわれた。古くは紀元前 52 年シーザーのガリア征討に反抗した中心地であって、この時ケナブム Cenabum の名のこの町は破壊された。その後「世界の再建者」*Restitutor Orbis* と讃えられながらも非業の最後をとげたローマ皇帝アウレリアヌス Lucius Domitius Aurelianus (ca. 214~275. 9. r. 270~275) が再建し、町の名は Aurelianum となった。これが今日の名の由来である。この町は百年戦争の中心地として史上に現われ、この町の抵抗は国民の奮起をよび、更に「オルレアンの少女」の別名をもつ奇蹟の少女ジャンヌ・ダルク Jeanne d'Arc が 1429 年 4 月 29 日突如としてこの町に現われ、祖国を救う転機となった。市の中心広場に彼女の勇壮な騎馬像がある。本劇の Duke of Orleans はフランシス一世(フランソア一世 François 1494. 9. 12~1547. 3. 31. r. 1515~1547) の第 2 王子のことである。

36 Alençon III. II. 85. 48.25 N 0.05 E

アランソン。フランス西部、オルヌ県 Orne の県庁所在地で人口約 33,000 (1968)。レース・麻・毛織物等の生産を中心とした農産物の主要なる中心地となっている。ル・マン Le Mans の北約 50 km でカーンへの中間に位置している。劇中ウルジーはこのアランソンの女公爵とヘンリー八世との結婚を望

んだが、その時既にこの女公爵は他に嫁いでいた。

37 Asher-house III, II, 231.

‘Asher’ というのは ‘Esher’ の古い呼び名であり、この家はハンプトン・コート（『前篇』注25 参看）の近くにあつて、ウィンチェスターの司教のものであつた。

この時既にこの家はウルジイのものとなつていたものであつたが、シェイクスピアはホリンシェド Holinshed¹⁵⁾の記述を逸脱して誤用した。

38 Winchester III, II, 231. 51.04 N 1.19 W

今日ではハンプシャー Hampshire (Hants ともいう) の主都であるが、英国で歴史上最も大きな地位を占めた都市の一つで、また古い時代のイングランドの首部でもあつた。すなわち 519 年にウェセックスの首都となり、829 年頃にはこの王エグバート Egbert¹⁶⁾が一応イングランドを統一し、更にその後アルフレッド大王 Alfred the Great¹⁷⁾をはじめ諸代の王の首都たる地位を保つた（注 26 の附図参省）。またデンマークから侵入し 1016 年イングランド王となつたクヌート Cnut¹⁸⁾はこの地で王冠をいただき、またこの地に埋葬されている。1043 年にエドワード証信王もこゝで戴冠し、ウィリアム征服王はロンドンを合せてこゝに首都たる地位を与え、自分の戴冠式をロンドンとこのウィンチェスターで行つてゐる。このように約 12 世紀までは政治・経済・産業上ロンドンを凌ぐ都市であつてヘンリー一世、ヘンリー三世、ヘンリー四世などがこの地で生まれてゐる。今日この町の中心ハイ・ストリートに大きな石の台座に有名な彫刻家ソオニクロフト Thornycroft¹⁹⁾の手になるアルフレッド大王の大きな立像があるが、町全体はまことに静かで住時の繁栄を偲ぶこのとが出来ない人口僅か 62,000 (1971) の町に過ぎない。

位置はロンドンから国道 31 号線を西南西に約 97 km, 鉄道ではロンドンのウオタールー駅から約 90 分の行程である。ローマ時代はヴェンタ・ベルガラム Venta Belgarum の名であつた。Venta の意はかつてはラテン語の *ven-*

dere = to sell から生じて ‘market town’ を意味し、全体は ‘market town of the Belgic tribe’ と説く筋もあるがケルト語学者はこれを認めていない。別説に *ven-* は enjoy, love を意味するケルト語で、これに Roman fort を意味する *ceaster* がついてサクソン時代に Wintanceaster となったのが今日のこの町名の由来ともされる。ローマ人の砦といわれるのはイチン川 Itchen の谷を見下ろすチョークの丘陵地帯が早くから開け、こゝにローマ人が要塞を築いたからである。

この町の由緒ある建物は大聖堂とパブリック・スクールの Winchester College である。

有名な大聖堂は 648 年に時のウェセックス王ケンワル Cenwalh²⁰⁾ がその基である St. Peter 教会堂を建て、852 年から 10 年がかりで拡張され、更に 10 世紀に大々的に建てかえられたが、なかでも 1367 年から 1404 年こゝの司教であったウィカム William of Wykeham (または Wickham) と 1447 年から 1486 年の司教のワンフレット William of Waynflete²¹⁾ の力が大きい。そうしてこの聖堂はローマのヴァティカン聖ピエトロ大聖堂の約 186 m を除いては中世の聖堂の中でヨーロッパ随一の長さ約 159 m を誇っている。

ウィンチェスター・コレッジは 1382 年ウィカム司教の創立するところでイギリスのパブリック・スクールで最古の歴史を有し、ヘンリー六世創立の名門イートン校の範ともなった名門校である²²⁾。ウィカムはハンプシャーのウィカム Wickham で生まれ、生年は 1324 年の夏のある日、それは 7 月 8 日から 9 月 27 日の間とされている。1367 年から没年の 1404 年 9 月 27 日までウィンチェスターの司教であり、その間 1368 年から 1371 年までと、1389 年から 1391 年までの 2 度大法官を勤めた。この人は教会よりむしろ王の官僚であり、当時の人々の言葉を借りて云えば、キリストよりもむしろカイサルに奉仕したのであった。またこの人は特に教育者としての偉業を残し、先述のウィンチェスター大聖堂の建設、ウェンチェスター・コレッジの創立、更にオックスフォードのニュー・コレッジの創立も行っている。ウィンチェスター・コレッジは規律と古典の学習に重点がおかれ、その気風は世相の荒れ

た今日でも変わっていないことをわれわれは町の通りで感じとることが出来る。この卒業生は特にウィカミストとよばれ、オックスフォードのニュー・コレッジに進むのが多いが、それも当然のことであろう。

39 Flanders III. II. 319.

ベルギー西部を中心に北はオランダ南部、南は北西フランスの一部にかけての北海に臨む海岸の低平な地帯。9世紀の古くから商業と毛織物工業の栄えた地方で、百年戦争の原因はイギリスからこゝに入る羊毛にあったといわれるが、今日も尚麻・毛織物・綿生産が盛んである。また休閒地をつくらない新しい輪作農法が18世紀にこの地方から広まり、今日ヨーロッパ第一の園芸地域である。住民は主としてフランス人。この地はローマ人やゲルマン人の支配を受けた後様々な支配の変遷を経たが、1830年ベルギー独立後は一部がオランダとフランスに属した他はすべてベルギー領となっている。主要都市はヨーロッパでも中世の面影を最もよく残し、またベルギーのベニスの名でよばれるブリュージュ Bruges と、同じく運河の街の眺望が美しいガン Gand 及びイーペル Ypres。

この地名はわが国ではイギリスの女流作家ウィーダ Ouida（本名 Marie Louise de la Ramée）の作品『フランダースの犬』*A Dog of Flanders* で英語読みの‘フランダース’で知られているが、美術・建築の分野では‘フランドル派’とフランス語読みを通して。尚ベルギーではフランス語が話されるが、1916年頃からそれが政治問題となり始め元来のフラマン語 Vlaams を使用する傾向が強くなってきている。Flanders はフラマン語ではヴラーデレン Vlaanderen である。上記のブリュージュなど3都市はそれぞれフラマン語ではブリュッゲ Brugge, ヘント Gent, イープル Ieper となる。

40 Dunstable IV. I. 27. 51.53 N 0.32 W

ロンドンからチェスターに向う国道5号線をロンドンから出て間もない約51km北上した地点。ベッドフォードシャーにある。Dunstable の名の由

来はベッドフォードシャー一帯がもともと沼沢地帯の一部であるので大して高くもない地点でも高く感ぜられることにある。すなわち dun = hill + stable = stand, state, -ble である。ウェルズ Wells²³⁾ならずともわれわれは物事に比率というものがあることを念頭に入れておかねばならないだろう。

ヘンリー一世の建てた修道院があったが、これは後にノルマン様式と初英式を代表する Church of St. Peter and St. Paul に改造された。1533年5月23日ここで当時のカンタベリの大主教クランマー Thomas Cranmer はヘンリー八世と王妃キャサリンの婚姻の無効、すなわち離婚を宣言した。クランマーは1489年7月2日に生まれ、ケンブリッジのジーザス・コレッジ Jesus College に進み、卒業後この特待研究員 Fellow となった。ヘンリー八世の離婚問題で王に有利な提言をしたことから王の殊遇を得て、1533年3月プロテスタントとして最初のカンタベリ第69代大主教となった。ダンスタブルで王とアラゴンのキャサリンの離婚を宣し、同時に王とアン・ボレーンとの結婚の合法性をも宣告した。奴隷根性のクランマーは更に1536年に王とアン・ボレーンの結婚の無効を宣し、1540年には王とその4番目の妃クレーブスのアン Anne of Cleves²⁴⁾の結婚と離婚とを認め、1542年に彼は王の5番目の妃キャサリン・ハワード Catherine Howard²⁵⁾を姦通罪での死刑を宣している。ヘンリー八世没後エドワード六世の摂政となったが、次に即位したメアリー女王によって母の仇とばかりに反逆罪に問われ、1556年3月21日オックスフォードのベイリオル・コレッジ Balliol College(1266年創立)の向いの溝に設けられた火刑場で焚刑に処せられたが、その死は毅然とし従容たるものであった。今日その場所を記念して高い「殉教者碑」The Martyrs' Memorial が建てられている。

41 Ampt Hill IV. I. 28. 52.02 N 0.30 W

ダンスタブルと同じくベッドフォードシャーにある。ダンスタブルとの距離は約10km。ロンドンの北西約67km。Ampt Hill Castle はヘンリー六世の治世にこの地の貴族ハアンポープ Fanhope によって建てられたもの。Fan-

hope なる人物については、*The Oxford English Dictionary* (略してOED。またの名 *New English Dictionary on Historical Principles; founded mainly on the materials collected by the Philological Society*. 略してNED) と並んで英国の国民的大編纂である *Dictionary of National Biography* にも記載がないので不明。

アラゴンのキャサリンは 1531 年から 1533 年までこの地でその失意の日を過した。

42 Dorset IV. I. 35 から IV. 1. 36 の間

イングランド南部沿海地方の州でイギリス海峡を距ててフランスのノルマンディ半島に面している。一部がチョーク層の台地からなる豊かな土壤に恵まれたこの州は英国の代表的農産物の生産地である。州の西にあるポートルランド島 Isle of Protland は島とはいうものの実は石灰岩からなる長さ 6 km, 幅約 3 km の半島で、この国で有名な保養地のウェーマス Weymouth から陸続きである。トーマス・ハーディによって「ウェセックスのジブラルタル」The Gibraltar of Wessex といわれた。島内にウィリアム征服王の建てた荘園が残り、また 1520 年ヘンリー八世の手になる Portland Castle がある。この島は建築石材の産地として有名で、ロンドン大火後、クリストファー・レンがセント・ポール寺院などの建造にこの石を大量に使用している。今日尚、石材の生産が行われている。また有名な刑務所があってその囚人は第一次大戦後まで石材の採掘に使われていた。今日刑務所の近くに当時の馬車鉄道の線路の跡が残っている。A・E・ハウスマンは次のように歌っている。

The star-filled seas are smooth to-night
 From France to England strown;
 Black towers above the Portland light
 The felon-quarried stone.

満天の星をうつした海が今宵ないで
 フランスからイギリスへ拡がっている。

ポートランドにそそり立つ黒い塔が

囚人が堀り出した石を照らす。 (*A Shropshire Lad* LIX)

43 Cinque-ports

IV. I. 35 から IV. I. 36 の間

ドーヴァー、サンドウィッチ、ハイス Hythe、ロムニー Romney、ヘースティングズの五港からなる連合町域をいう。チョーク層が海岸にまで迫って砂浜となっていない崖状の地形のところを発達した港で、ノルマン人のイギリス征服以前に開けた。この五港の名はエドワード証信王の時か、あるいはそれより早い時期につけられたものらしい。中世に早くも漁業と、大陸との交易を掌握していて、それに伴って種々の特権や免除を有する代りに、一朝有事の際には一定の船舶を王室の用 royal fleets に供する義務があった。五港は大守 Lord Warden の司るところで、その居館はウォールマ Walmer の古城であった。大守の中にはウィリアム・ピット William Pitt (1802~3 在任)、ウェリントン公 Duke of Wellington (1829-52 在任)、ウィンストン・チャーチル Sir Winston Churchill (1941~1965 在任)がいることから、この大守の職は国家の元勳に名誉職として与えられる程高いものであることがわかる。

1 Sandwich

町の建物の多くに見られるライオンと船とを組み合わせた紋章がこの町が五港の一つであることを示している。こゝは紀元前 54 年シーザー英国侵改の上陸地点の一つともされている。また 1170 年トマス・ア・ベケットが亡命先のフランスから帰国したのはこの港にであった。人口約 4,000 人（以下いずれも 1971 年調査）。

2 Dover

五港のうちで最も主要な都市で現今人口約 34,000 人。この地はローマ時代から重要な地点で今日も大陸との最短距離（フランスのカレーとの間は約 35 km）の発着港としてその重要性は変わらず、またカンタベリを経てロンドンに通ずる道路（ウォトリング・ストリート）の起点である。ロンドンから鉄道で 124 km。この地を表わす地名が古くから記録されていることもこの地の重

要性を示すものである。すなわち、ラテン語で *Dubrae, Dubris, Portus Dubris*, OE で *Dofre, Dofere* である。

この町の東にある 112 m の白亜層の断崖に立つ Dover Castle はその基が紀元 50 年頃ローマ軍団によって築かれたとされる。また町の西部にある高さ 115 m の断崖の一部は「シェイクスピアの崖」Shakespeare(s) Cliff といわれるところがあるが、これは『リア王』*King Lear* の副筋の主人公グロスター伯 Earl of Gloucester が自殺をはかって果し得なかった（第 4 幕第 6 場）場所とされて今日名所となっている。

3 Hythe

人口約 11,000 人。夏期行楽地として人気がある。この町の役場には五港に関する歴史的諸文書が蔵され、また博物館には中世時代の度量衡の道具が陳列されている。

口頭教授法 Oral Method の主唱者であり、1922 年 3 月文部省語学教育顧問として来朝し、わが国英語教育に絶大な貢献をしたパーマ Harold E. Palmer はこの町に生まれた。

4 Romney

五港の一つであったが 1287 年海嘯に襲われて港は破壊されてしまい、今日港たるの実を失っているが、五港についての多くの記録はこゝにも保存されている。人口約 7,000。今日町名は New Romney と変っている。

5 Hastings

港は浸蝕を受けてなくなり、かつて五港の一つであった面影は今はなく、ドーヴァー海峡に臨む凹地状の斜面にひろがる美しい風景と冬期間温暖な気候のため今日別荘地・行楽地・避寒地として知られ、海岸線に沿ってのたたずまいは地中海沿岸の保養地の様相を呈している。この町が何よりも有名なのは 1066 年 10 月 14 日ウィリアム征服王の戦勝地としてである。人口 72,000。

45 Northumberland IV. II. 12

アングロ・サクソン時代にノーサンブリアの一部であって今日もその名の通りイングランドの最北部を占める。主都はニュー・カッスル・アポン・タインである。面積5,180 km²、人口は約794,000 (1971)の人口稀薄で、特に北部や西部はイギリスの中でも最も機械文明に縁遠いところである。地形・気候共に農業に適さず耕地面積は総面積の15%に過ぎない。牧羊が主産業であるが、13世紀頃から東南部に開発された炭田に伴い諸々の工業が興り、工業都市の出現をみた。

ノーサンバーランドにおいてわれわれ英語学徒に関係深いものに次の3つがある。

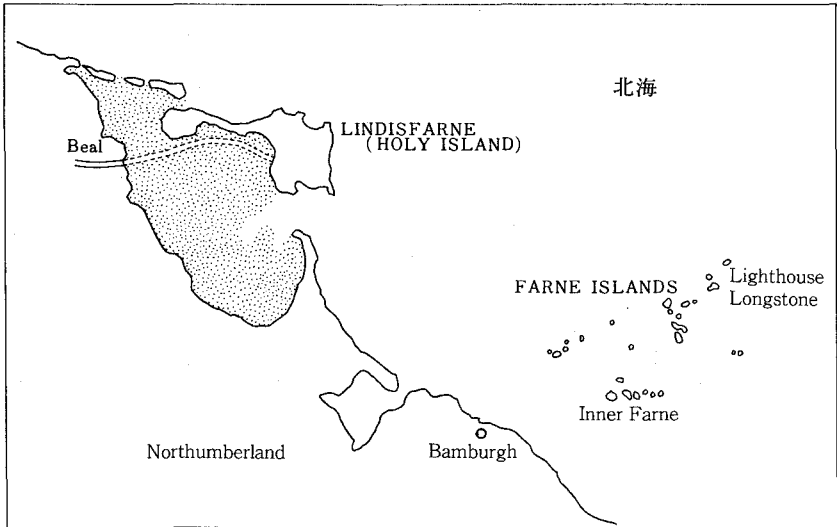
1 この州の北端に近く北海にあるリンディスファーン半島 Lindisfarne である。これは別名聖島 Holy Island といってイギリスにおけるキリスト教の聖蹟である。こゝは満潮時には島となるが、干潮時には徒歩で通れるところであって、こゝに渡るベースの町ベリック・アポン・ツイード Berwick-upon-Tweed の市内各所にその日の潮の干満表が掲示されている。

かつてノーサンブリアの王であったオズワルド Oswald²⁶⁾によってアイオーナから迎えられた修道士エーダン St. Aidan (または Aedan) がこの島に司教座を定めた。彼がノーサンブリアに迎えられたその当時はこの国がローマから派遣されたパウリヌスによってキリスト教に改宗したばかりの頃であった。彼はリンディスファーンに教会堂と修道院を建て、更に宣教師を育てるための学校も建て、12人の少年が当時教育を受けた。彼はパウリヌスが既に播き育てていた基盤と王オズワルドの友情と理解の上になつてキリスト教を布教することが出来たが、何にもましてその成功は高德な彼の人柄にあった。人格の高潔さ・学問の深さ・布教の熱心さ・数々の奇蹟についてベーダーはその『英国民教会史』で詳しく讚美している。またエーダンがこの島の司教として赴くことになつた経緯もその中に詳しい。ベーダーによると自らアイオーナを訪れて洗礼を受けたオズワルドが、かつて自分と自分の人


民のために宣教師をアイオーナから求めた際に厳格な人が派遣されてきたが、何の成果もあげることなくアイオーナに戻った。そうしてノーサンブリアのあんな頑冥野蛮な心の人間を教化することなどは出来るものではないと報告した。その時そこに居合わせたエーダン「兄弟よ、あなたはその人たちに余りにも厳しかったのだ。最初にやわらかな牛乳を与えるようにと使徒の教えにもあるではないか」²⁷⁾と述べた。同席していたエーダンのこの言葉を聴き入る者が、彼こそ徳の母であるとして彼を推薦し、その派遣が決まったというのである。エーダンはオズワルドが敗死した後もこの地に留まり、17年間の長きにわたり伝道し、651年8月31日リンディスファーンの南、本土にあって今は北海の白波の寄せる断崖絶佳に建って長い間英国王室の夏の離宮となっていたバンバラ城のあるバンバラ Bamburgh で没した。われわれはリンディスファーンの今日廃墟となった11世紀の修道院墓地の北側に十字架を背にして右手に司教の杖を持って立つエーダンの巨像を見ることが出来る。

652年アイオーナの修道士フィナン Finan が次の司教となった。彼はスコット人の習慣に従ってリンディスファーンに全オーク材の教会堂を建てたが、マーシア王ペンダによって焼かれた。フィナンはこゝに10年間司教として勤めたが661年没した。次の司教コルマン Colman (ca. 605~676) の代に664年のかのウィットビィの宗教会議でローマ・カトリック側の指導者ウィルフリッドたちにアイリッシュ系キリスト教の孤立性が批判され論破されるに及んで、コルマンは3年間こゝの司教座に留まっただけで30人の仲間を連れて去り、再び自分の生地であり、ケルト人の住む荒野のメイイオー Mayo に戻った。

コルマンの去った後一時リンディスファーン修道院の副院長を勤めていたカスバード(またはクスベルト) Cuthbert はウィットビィのシノドによる新稜序を受け容れたが、彼はかつて(651年以前)リンディスファーンから遙か洋上約14km離れたファーン諸島 Farne Islands——主たる小島が17で、極めて小さいのも数えると28の島からなる群島の一つで本土に一番近く



LINDISFARNE 島及びFARNE ISLANDS 諸島

 の部分は干潮時には砂土となる
 Beal の町からの点線路が干潮時にLindisfarne 島への道路部分

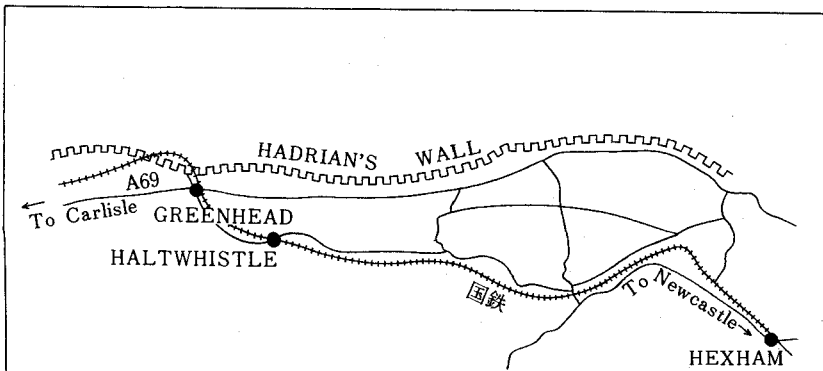
(約 2 km)、一番大きなインナ・ファーン島 Inner Farne で石と芝士の壁に丸太と麦藁の屋根の質素な小舎で長年禁欲と孤独の生活を送っていたのであったが、676 年再び彼はこの島に戻った。この島はエーダンも屢々秘かな祈りと観想を求めて訪れたところであった。この島に戻って聖なる仕事に専念していたカスバートは 685 年リンディスファーンの 6 代目司教に迎えられた。しかし彼は 687 年またまたファーン島に戻り、3 月 20 日水曜日にこの世を去った。彼は修道士になる前は牧者であったが、ベーダーも述べているように宗教的天才・予言者の聖者であり、人を愛する徳行の人であった。彼の遺体は 11 年後掘り返された時に腐敗していることなく眠れるような姿であったと伝えられる²⁸⁾。

『アングロ・サクソン年代記』によると 793 年 6 月 8 日デー人がリンディスファーンを襲った時に、この修道士たちが神に求めた救いの祈りなどは何の利き目もなく、修道院は忽ち破壊され、火を放たれ、信者の寄進になる

宝物や金は奪われ、また聖器は壊され、修道士は虐殺されたり、大陸に連れ去られて奴隷として物々交換された。875年彼等侵入者は再びこの島を襲った。この時修道士はカスバートの遺体を掘り起こし、それを携えて逃げ、8年間の放浪の後883年ニュー・カッスル・アポン・タインの南16kmのチェスター・ラ・ストレット Chester-le-Street によろやく祀り、更に995年ドラマの大聖堂に移し、今日までここに安置されている。

リンディスファーンを襲ったデーンのヴィキングの戦士が彼等の最大の武器の大きな鉄の斧をふりかざした当時の姿を刻んだ碑が今日リンディスファーンに建てられている。

2 次は有名なハドリアヌスの城壁 Hadrian's Wall である。これは第14代ローマ皇帝ハドリアヌスが辺境の猛族スコット人やピクト人の南下を防ぐために120年タイン川とソルウェイ川の線、すなわちニュー・カッスル・アポン・タインの東郊外タイン川口に面したウォールゼンド Wallsend（この語義にその意味がある）からカンバーランド Cumberland の主都カーライル Carlisle の西、ソルウェイ湾に臨んだバウネス Bowness に至る地点までにイギリス版の万里の長城を築いた。当時は *Vallum Hadriani* といわれた。完成は126年とも127年ともいわれる。この城壁は二重構造で内側（南側）が土壁 Vallum で、外側が石壁 Murus から成り、その真中が軍用道路となって長さ80ローマン・マイル（約118km）、高さ5m、幅2.5mで、1.6km毎に小城



砦塞を備えたものであったが、今日この城壁が残っているのはカーライルから東へ約 29 km, 国道 A 69 の道路を走ったグリーンヘッド Greenhead の辺りだけである。交通の便は極めて悪い。

3 グレース・ダーリング Grace Darling の物語の舞台でもある。彼女 Grace Horsley Darling (1815.11.24~1842.10.20) はファーン諸島の中でも最も遠い島のロングストーン 燈台 Longstone Lighthouse の燈台守の娘であった。1838 年 9 月 7 日の朝蒸気船フォーハーシャー号 Forfarshire がロングストーン島の近くで難破した。彼女と年老いた父ウィリアムは勇敢な精神と卓越した技術とをもって 8 人の男と 1 人の女の生命を救った。この父娘の英雄的・人道的行為は忽ち世界に伝えられ、わが国でも昔英語のテキストに扱われた。彼女はその後この島の燈台守として残ったが、肺患のためバンバラで短い人生を終えた。

46 Leicester IV. II. 17 52. 38 N 1.05 W

レスターとよむ。この地名からみて古くローマ軍の駐屯地であったことがわかるように古くから交通の要所で、ローマ時代の遺跡に富む。ロンドンから北西に約 145 km で近代工業の中心地。人口は約 283,000 (1971 年) である。本劇のウルジィはこの町の北にある Leicester Abbey で 1530 年 11 月 29 日に急死している。この地はまた『リア王』のリア王と娘たちの居住のあったところとも伝えられている。

レスター市の西にマーケット・ボズワース Market Bosworth (単に Bosworth ともいう) という町がある。こゝはサミュエル・ジョンソンが助教師をしたところである。当時彼の家はまさに家計困難を極め、更に彼は憂鬱病で 1731 年秋オックスフォードを退学した。しかも父親はこの年 12 月に貧困の中で他界し、ジョンソンは彼自身の暮しにこと欠く有様であった。彼は 1732 年 7 月 16 日にこのレスターの町までの約 20 km を徒歩で赴任したらしい。しかしこの勤め口は彼に極めて不快なものであったためか僅か 2, 3 ヶ月でその職を辞している。

47 Oxford IV. II. 59 51.46 N 1.15 W

わが国ではかつてこの語に「牛津」という漢字を当てたが、これは ox = 牛 + ford = 津を以てであり、「牛の渡し場」のその名の通りテムズ川（この辺りではアイシス Isis と名が変わる）とその支流チャーウェル川 Cherwell とが市の南で合流し、その川水に浸る牧場の広がる中を牛が歩み、また市の紋章も牛の大きな姿そのものである。ロンドンから西北西約 80 km, 汽車で約 70 分である。学問の町として有名であるが、近年この町にも近代工業の波が押し寄せ、自動車・印刷・食品などの工業都市に可成り変貌している。人口も年々増加し 1971 年には 1950 年の 100,000 人の約 2 倍 194,000 人となった。

本劇のこの IV. II. 59 で「これら双子の学問所、イプスウィチよ、オックスフォードよ」といっているのは元より地名ではなく所謂大学を指しているように、オックスフォードにウルジィは 1525 年 Christ Church 学寮を建てた。『前篇』に記したようにウルジィはその創建に当って己れの権勢を以てイギリス全土の僧院からその建設資金を絞り取ったのであった。このコレッチはウルジィが当時枢機卿 Cardinal であったため Cardinal College とよばれ、オックスフォードのコレッチの中の最大のものであり、またこの礼拝堂はオックスフォードの本寺で主教座であることなどから 'The House' の名で広く親しまれている。

今日この町にあるコレッチは 5 つの女子学寮を含めて約 40 程あるが、創立者も創立の年代もそれぞれ異なるところからそれぞれ自主の気風高く、例えばコレッチの長の名一つにしてもいろいろ異なり、Christ Church は Dean, Magdalen は President, Balliol は Master, Queen's は Provost, Wadham は Warden と称する如きである。創立最古のものは University College で、アルフレッド大王が 872 年に創立したものとして 19 世紀の中頃に至るまで長い間信じられていた。1767 年このコレッチを卒業した有名な政治家エルドン卿 John Scott, 1st Earl of Eldon (1751.6.4~1838.1.13) が受けた卒業試験でもそのことはわかる。それは「髑髏の地という意味のヘブライ語は何か」と「誰

がユニヴァーシティ・コレッジを創立したか」であった。彼は「ゴルゴタ Golgotha」と「アルフレッド大王」と答えてヘブライ語と歴史の試験に合格したといわれる²⁹⁾。

東洋女子短大助教授の岡田純枝さんの御教示によって今こゝにオックスフォードのコレッジを記してみる。

(A) For Men (Undergraduate and Graduate)

University College	Merton College
Ballion College	Exeter College
Oriel College	The Queen's College
New College	Lincoln College
Magdalen College	Corpus Christ College
Christ Church	Trinity College
St. John's College	Pembroke College
Worcester College	Keble College
St. Peter's College	St. Edmund Hall

(B) For Men and Women Undergraduates and Men Graduates

Brasenose College	Jesus College
Wadham College	Hertford College
St. Catherine's College	

(C) For Men and Women (Graduate)

Nuffield College	St. Antony's College
Linacre College	St. Cross College
Wolfson College	

(D) Permanent Private Halls for Men

Campion Hall	St. Benet's Hall
Mansfield College	Regent's Park College
Greyfriars (priority to members of the Franciscan Order)	

(E) For Fellows

All Souls College

(F) For Women

Lady Margaret Hall

St. Hilda's College

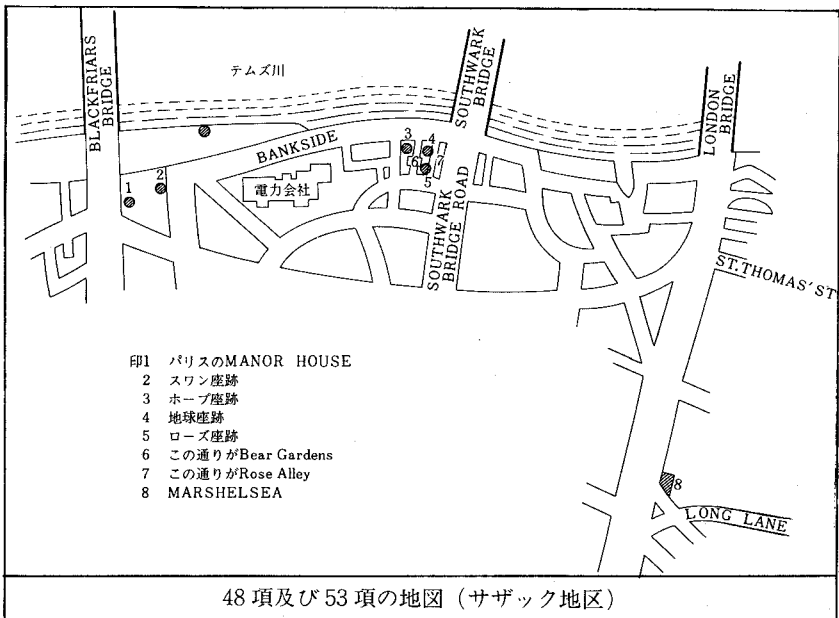
Somerville College

St. Anne's College

St. Hugh's College

48 Paris-garden V. III. 2

テムズ川南岸のバンクサイド——今日の Southwark Bridge Road の西にあって、前身は 14 世紀にロベール・ド・パリ Robert de Paris という人の荘園であったものだが、ヘンズロウ Henslowe³⁰⁾ が 1595 年にこの一帯を入手し、1604 年に「熊いじめ」「牛攻め」bull-and-bear baiting といって、主としてマスティフかグレイハウンドといった猛犬を熊や牛にけしかけたり、あるいは棒杭につないだ熊に犬をけしかける残忍な見世物のリングをもった娯楽施設とし、16 世紀から 17 世紀にかけて繁昌した。この種の娯楽施設はヘン



リー八世の時代、あるいは更にそれより早い頃にこの一帯及びホワイトホール宮（44 項）で盛んであった。ホワイトホール宮のは大使の歓迎会とかその他の国家的式典に仰々しく行われるものであった。このようなわけでそのパトロンを時には王室が勤めることさえあり、ヘンリー八世は 1526 年パトロンとなったといわれる。16 世紀末にはこの辺りに芝居の上演と bull-and-bear baiting の両方の興行の出来る劇場が沢山建つようになった。1583 年 Paris-garden の棧敷席が崩れ落ちて、観客の数人が死亡し、500 人以上が怪我をするという大事故があった。以前からこのような娯楽を非難していた清教徒たちは、これこそ「神の特別な審判」が下ったものであり、日曜に「浮かれ騒ぎ」をしていることの「報い」だと大声をあげた。1613 年経営者のヘンズロウはこの Paris-garden を取り壊し、この跡地に 1614 年近くにあったスワン座 The Swan Theatre（1596～1621 年頃までこゝにあった）と形も大きさも似た劇場を建ててホープ座 The Hope Theatre と称した。初演はベン・ジョンソン Ben Johnson の *Bartholomew Fair* であった。

Bull-and-bear baiting の騒ぎは尋常なものでなかったらしいことはこの V. IV. 2 からもわかる。見物人は劇場通いの伊達男や Tower Hill（50 項）での首切りや手足切断の処刑を見に群がる連中はもとより、お上品な貴婦人や典雅な紳士までがそうであった。尤も紳士淑女は泰然自若として見物したが、下層の市民達はしゃがれ声を出して自分たちのチャンピオンの動物を声援した。この Paris-garden には当時ハリー・ハンクス Harry Hunks やサッカーソン Sackerson、それにジョージ・ストーン George Stone とかりンカンのトム Tom of Lincoln という名をつけられた有名なチャンピオン熊が人気を呼んでいたのであった。サッカーソンについてはシェイクスピアが *The Merry Wives of Windsor* の第 1 幕第 1 場 310 行で触れている。

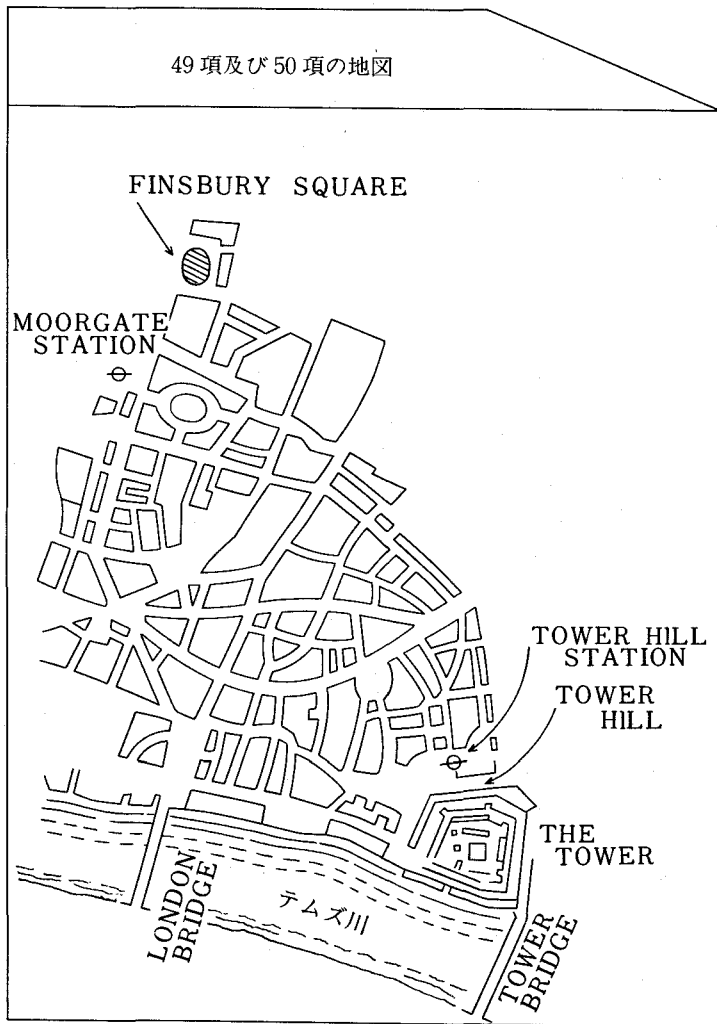
毎日曜に集まる見物人は 200～300 人であって、入場料は平均半ペニーであったからそう安いというものでもなかった。

今日この界限は当時のいかかわしや狂騒さは推測することも出来ない程に荒れ、工場・倉庫の建ち並ぶところとなっているが、町の汚さは文明開化

のこの時世のものとは思えない程である。

49 Moorfields V. III. 32

昔のロンドンにあった一地区であって、今日の地名で示せばこゝはロンドン塔の北西、更にもっと詳しくいえばバンク Bank (Bank といえはこれはイ



ングランド銀行 The Bank of Eniland をいう。それは丁度ロンドン塔をただ単に The Tower というのと同じである) の北、ムアゲート地下鉄駅 Moor-gate Station のすぐ東にあるフィンズバリ・スクエア Finsbury Square とその近く一帯に当る。この辺りの地名に Moor- のつくのが多いように排水の悪い湿地(荒地)であった。1527年に初めて排水工事が行われ、1606年に遊び場となって、古くからロンドン住民の遊技場として使われ、特に棒術の試合場であった。冬にはスケート場ともなった。またこゝは16世紀から18世紀にロンドンなどの地にあったトレインバンド Trainband といわれる民兵団の練兵場としても使われたところである。1666年9月2日に起ったロンドン大火では多くの人々がここに避難した。

50 Tower Hill V. III. 61

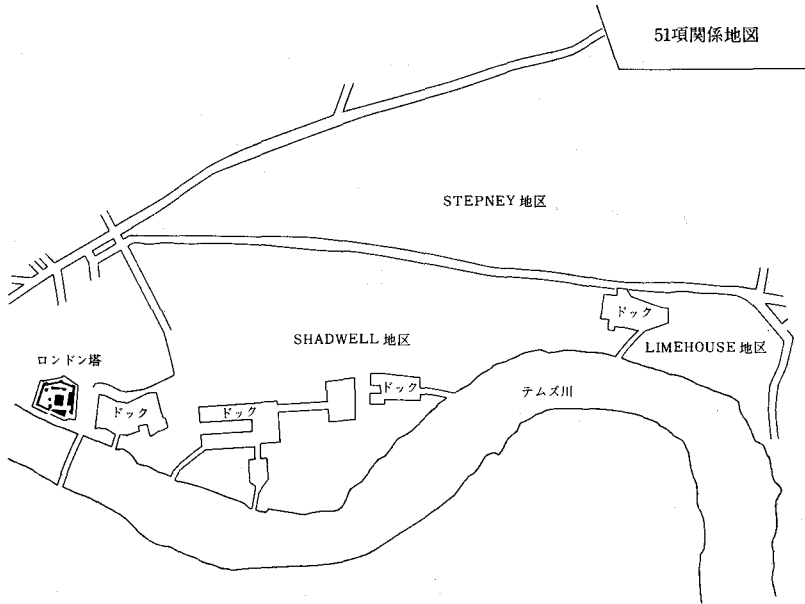
ロンドン塔のすぐ北、地下鉄タワー・ヒル駅 Tower Hill Station を出てすぐ右手一帯がこの場所であったが今は道路となっている。古くから政治犯の処刑の地であった。本文にあるようにその処刑を見に多くの者が集まった。

シェイクスピアは「ロンドン塔」という言葉を全作品中全部で54回使っているが——その中での約半分の26回は『リチャード三世』*Richard III*においてである——一方 Tower Hill はこの『ヘンリー八世』のこの場で一回使っただけである。

51 Limehouse V. III. 61

ロンドンのテムズ川の北岸沿いにあつて1730年までステプニィ Stepney 地区の貧民区をなしていた。またロンドン支那人街であり、また長い間国内外の船員のたまり場として知られていた。Limehouse の名の由来は多分石灰焼き釜、すなわち 'lyme oasts' によるらしく、この辺りは煉瓦の製造の行われたところでもあつた。

かつてこの辺りは色々な宗派の祈禱所があつてその争いの絶えないところであつたらしいが、その場所は今日不明である。



この地区はいわゆるロンドンのイースト・エンド、すなわちドックが立ち並ぶ町であるからその環境の程度というものが自ずとわかるものである。またドックがあるためにも第2次世界大戦での被害も大きかった。

この区に近いシャドウエル Shadwell 地区の光景を描写したテーヌ Taine³¹⁾の『英国覚書』*Notes sur l'Angleterre* の一節を今こゝに石田憲次博士の著書からの孫引で紹介してみる。「私はマルセイユ、アントワープ、パリのひどい場所を見たが、とてもこれとは比較にならない。低い家々、赤い屋根の煉瓦造りのみすばらしい通りが四方八方に交叉して、陰気そうにテムズの川岸へ下って行っている。乞食と盗人と淫売婦、殊に淫売婦がシャドウエル街に充ち満ちている。地下の酒場できいきいいうような音楽が聞こえる。時とするとバイオリンを弾いているのは黒奴である。開いた窓越しに乱雑になった寝床と踊っている何人かの女が見える。十分間に三度戸口に人だかりがしたのを見た。喧嘩が、特に女共の喧嘩があったのである。その一人は血

まびれの姿になり、両眼に涙を浮かべ、酔払って鋭い嘎れた声で叫び、一人の男につかろうと思っていた。その場に居合せた者共は笑った。その騒ぎに隣りの小路が、ぼろを着た貧しい子供や淫売婦やらの住民を、一時に人間をはき出す種の口のように吐き出した。」³²⁾

52 *Limbo Patrum* V. III. 63

このように屢々大文字で始められる。The limbo of fathers ともいい、ラテン語では *Limbus patrum* といわれる。カトリック用語で日本で「古聖所」または「孩所」と訳語が当てられている。limbo の原意はラテン語の *limbus*、すなわち辺境の意であって、地獄の辺土をいい、これは天国と地獄の間にあって、自罪によらないで天国に入れない人、すなわちキリスト教に接する機会のなかった人の靈魂や、洗礼を受けない子供・異教徒・白痴などの靈魂が、いまだ昇天せず *unsaved* のまゝで滞留する場所、またはその状態を指すもので、ダンテは地獄の十界の最初にこれを当てた。これに2種あって、1つがこの *Limbus patrum* であり、今1つが *Limbus infantium* = the limbo of infants である。これらについての解説は富山房の『カトリック大辞典』第1巻から引用する。「(1)太祖の孩所 (*limbus patrum*)、古聖所、アブラハムの懐(路 16ノ22)とも言われる。ここは旧約時代の義人(及び行い正しき異教徒)がキリストの昇天まで苦痛苦悩を課せられず、一時的に幽閉されている場所。太祖の孩所の嘗てありしことは、一部は「第一の幕屋」(来9ノ18)の存する間は天国に入る道の未だ開けないとされることから来ており、一部は古聖所にありし靈魂に救いの喜びを宜べ伝え給うためのキリストの古聖所に下れること(彼前31ノ18以下)に由来している。(2)嬰兒の孩所 (*libus puerorum*)、原罪のみをもって事の辨へなきうちに死したるものは、天国に入り、超自然的祝福は受け得ないが、ヤンセニウス派に反対して教会が明言しているように、自然的祝福は受け得る。かかる小兒の滞留の場所或はその状態である。」

53 *Marshalsea* V. III. 85

テムズ南岸サザック southwark にあった5つの監獄のうちの1つで、しかも最古のもので、1377年にその記録がある。1813年に廃止されたが、南接した今1つの方は負債者用監獄として New Marshalsea の名で存続したが、1860年負債による投獄が廃止されたのに伴い閉鎖され取り壊された(48項附图参看)。

54 Saba V. IV. 23

Sheba のこと。紀元前13世紀頃にすでにミナ王国、ついで紀元前10世紀頃にシバの女王の伝説をもったサバ王国が存在していたところのアラビア南西部にあった古い国で、今のイエメン Yemen 地方をいう。新約聖書のマタイ伝第12章第42節とルカ伝の第11章第31節でイエスが「南の女王」といっているのはこのシバの女王のことであり、またこの地を「地の極」といったのはこの地がエルサレムから約1600km以上離れていることを考えれば妥当であろう。古来洋の東西を結ぶ貿易の要地として知られ、香料・宝石などの交易で有名であった。

55 New nations V. IV. 52

これは1607年にロンドン会社(通称ヴァージニア会社)の手で英国の植民地となったヴァージニアなどをいっている。1608年、時の国王の名をとってジェームズ・タウンが建設された。尚、本劇第5幕第3場の33行目の'strange Indian' というのも当時アメリカから英国に連れて来られたインディアンをいっていると思われるが、これを印度人と解する向きもあって、坪内逍遙は後者をとっている。

(昭和51年5月21日受理)

注

- 1) Tiberius Claudius Drusus Nero. 前10.8.1~後54.10.13. r. 41~54. 小児麻痺で歩行困難・云辞不明瞭と知恵のおくれた子として幼時から愚者扱ひされ、母親すら屢々

「化物」とよぶことがあった。血統上はローマ皇統にあったが、このため50歳を過ぎても軍歴も公職も経験することなく、また元老院に議席もなく、ユリウス家の養子とさえなっていなかった。全くの偶然時で第4代皇帝となったがその身体上の欠陥ばかりでなく言動の陳腐噴飯のために世人の笑い草となることが多々あった。更に政務を多くの解放好隸に任せ、また妻のいいなりでもあったので不評判の渦中の人であった。軍歴のない彼には威信をわが身につけるためにどうしても軍事上の勝利が必要であったので、シーザー以来の課題であったこの遠征を企て一応の成果を取めた。

- 2) Boudicca の名はヴィクトリア時代になって詩人のクーパー及びテニスンがこれを美しい口調の Boadicea (ボアディシア) と変えたが歴史家や語学者はそれを認めていない。尚ボウディッカの像はテムズ川にかゝるウェストミンスター橋のたもと、ピック・ベンに對い合って建立されている。
- 3) Domesday Book. Doomsday Book ともいわれるが、単に Domesday あるいは Doomsday ともいわれる。略称は D.B. ウィリアム一世(征服王)の命により1085年かやら1年かかりで作られた英国全土にわたる土地大調査の記録である。この名は古代英語の *dōmes dæg* = day of judgement (Last Judgement) に由来するが、それは豚一匹、牛一匹をも記録するといった調査の厳正ぶりをたとえてのものであった。
- 4) Remigius. 1092年没。リンカンの司教。ウィリアム征服王のイギリス侵攻に際して船1隻と20人の騎士を寄進することによって1067年ドーチェスター Dorchester-on-Thames の司教に任ぜられ、1072年リンカンの司教となった。ランフランクスの2度のローマ旅行(1071年, 1076年)に随行している。
- 5) Alexander. 1148年没。生れはノルマン人であった。1123年リンカン司教。1125年カンタベリのウィリアム William とヨークのサルスタン Thurstan の大司教及びグラスゴーの司教ジョン John に随行してローマに渡った。ヘンリー一世死後、その娘にして神聖ローマ皇帝ハインリッヒ五世の妃であったマティルダ Matilda (1102~1167. 9.10) とヘンリー一世の甥のステイーヴン Stephen (ca. 1097~1154. 10.25) との王位継承の争いの渦中の人となり、そのため一時捕えられた。1145年再びローマに旅した。1146年リンカンでステイーヴンを授冠させたと伝えられる。1147年またもローマに旅して帰国したが、この時患った熱病が因で没した。
- 6) St. Hugh of Avalon. 1135?~1200. St. Hugh of Lincoln ともいわれる。フランスのアヴァロンで生まれ、1160年グランド・シャルトルーズ Grande Chartreuse (グルノーブル Grenoble のすぐ北) のカルトゥジオ会(カルト教会) Carthusian house 修道士となったが、ヘンリー二世に招かれて1175年頃イギリスに渡り、王の顧問となった。1186年9月21日から死ぬ迄リンカンの司教であった。1194年ジョン王 John the Lackland を破門し、また1198年リチャード一世の軍事要求拒否の先頭に立った。祝日は11月17日。尚チョーサの *The Prioress's Tale* やマーローの *Jew of Malta* に出る St. Hugh of Lincoln とは別人である。
- 7) Thomas Fuller. 1608.6.19~1661.8.12. 聖職者。ケンブリッジを1628年に

出て諸地で聖職についたが、1643年から1644年の内乱で王党に与した。古趣豊かな機知とヒューモアに富んだ才筆を揮った。十字軍や教会の歴史について多くの著作を残した。本文に引用した僅か1行の文にも今日普通の辞書にはない語が2語もある。torve = grim, fierce-looking; tetric (= tetric, tetrica) = austere, severeである。本文引用の出典はBenn社の*Blue Guide* (1965年版)の559頁からである。

- 8) Robin Hood. 1160年から1247年頃にいたといわれる英国の伝説的人物で、古来英国民から最も愛された義賊。一説には彼の本名はロバート・フィッターウース Robert Fitz-Ooth といい、ノッティンガムシャー Nottinghamshire のロックスリ Locksley で生まれたハンティンドン伯 Earl of Huntingdon であったが、故あって国法に触れたおたずね者 Outlaw となり、その後主としてシェッフィールド Sheffield の東南約 30 km, ノッティンガムの北約 23 km にあって (研究社『英米文学辞典』が示すところはズレがある), 嘗て王室領の森林であったが今は Welbeck 公, Clumber 公, Worksop 公, Thoresby 公の私園で通称 Dukeries といわれる一帯の地シャーウッド・フォレスト Sherwood Forest に本拠を構え、自身名に負う弓の名手であり、部下にこれまた弓の名人で精悍な雲つく大男ながらその名は奇しくもリトル・ジョン Little John, 坊主の癖に喧嘩早く、そして肥って陽気なフライア・タック Friar Tuck, それにロビン・フッドの甥ともいわれるウィル・スカーレット Will Scarlet (または Scadlock, Scathelocke) など森の色にまがうリンカン・グリーンの上衣を着けた部下を率いて神仏鬼没, 強きを挫いて弱きを助け, 自由で陽気な生活をしたといわれる。彼を主題としたバラッドは非常に多い。またウォルター・スコットの有名な歴史小説 *Ivanhoe* やテニソンの詩劇 *The Foresters* などに扱われている。またロビン・フッドの物語は五月節の祝祭 May-Day festivities と密接な結合をなして, 16世紀には 'Robin Hood sports' という特殊な遊戯となり, これは更に 'Morris-dance' といわれる奇怪な田舎踊りに吸収・併合された。ノッティンガム市にある Nottingham Castle の入口外壁の近くにチョーサーの『カンタベリ物語』に出る従士 yeoman のような美しい出立ちで弓を射ったロビン・フッドのブロンズ像と彼の部下のレリーフが見られる。

シェイクスピアの *As You Like It* で前公爵がアーデンの森で陽気な連中と一緒に「昔のイギリスのロビン・フッド同様の生活をしている」 'they live like the old Robin Hood of England' (I. I. 116) ことが語られている。また同じく *The Two Gentlemen of Verona* では「ロビン・フッドの肥っちょの坊主 (フライア) の頭に誓って」 'By the bare scalp of Robin Hood's fat friar,' (IV. I. 36) と, 更に *Henry the Fourth* でも次のように言われている。「ロビン・フッドとスカーレットとジョンと」 'And Robin Hood, Scarlet and John.' (*The Second Part of Henry the Fourth*, V. III, 103)

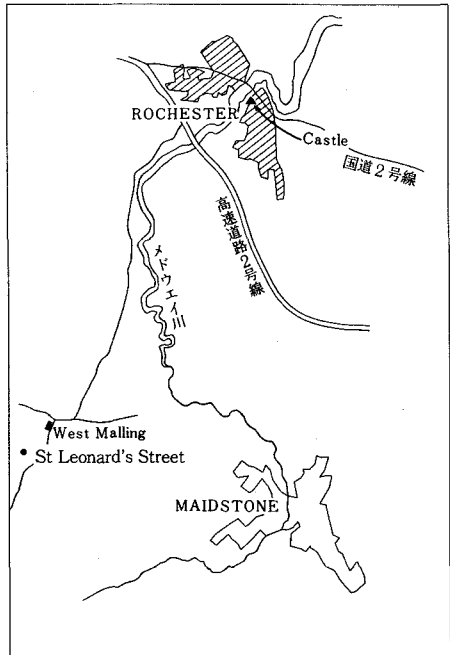
- 9) Ouse の名の川はイギリスにこの他にも数本ある。
- 10) Etheldrida, Etheldreda, Aedilthryd と綴られ, 日本ではエセルドレーダともいわれる。聖人。生年は 630 年頃といわれる。イースト・アングリアの王アンナ Anna の娘

で、先きに沼沢地方南ギルワ Girvii の王子トンベルト Tonbert と結婚していたが、死別し、その後ノーサンブリアの王で664年ウィットビーでのシノドを開いたオズウィの息子にして、当時ノーサンブリアの王を継いでいたエグフリッド Egfrid の妃となった。彼女はこの王と処女のまゝ、12年間を——ベエダーの言葉でいえば「輝かしい状態」を過したという。679年または680年6月23日に没して木棺に入れられ埋葬されたが、16年後の695年(696年)10月17日石棺に移すために墓が開かれた時その遺骸は腐敗せず、死した時と全く同じ状態の奇蹟を示したといわれる。エゼルスリスについてのベエダーの讃辞はその著『英国民教会史』(4-19, 20)に詳しい(注26の附図参看)。

- 11) 地味豊かな地方に屢々 'garden' の語が与えられる。英国では特にケントとウスターシャー Worcestershire の両地方がこの名でよばれる。The Oxford English Dictionary によると 'The Garden of England' の語の古い記録は1885年 Farjeon なる劇作家の Sacred Nugget の第1幕第7場に見られる。

'Yes, sir, Kent's my county, but even in the garden of England they can't grow finer roses than them.'

- 12) ラテン名はガンドルフス Gundolphus. 1024年頃フランスのルアーンに生まれ、1059年ル・ベックの修道士となり、こゝでアンセルムとランフランクスと知己となった。ランフランクスに従ってカーンで修業し、1070年ランフランクスと共に英国に渡り、ガンドルフはこの年ケント州のウェスト・モーリング West Malling の南西約1kmの地に St. Leonard's Tower を建て、更に1090年にはウェスト・モーリングにベネディクト修道院を建てたが、これは今日廃墟に留るだけである。彼の大きな遺産は1078年頃ウィリアム征服王のために建てたロンドン塔の中心的建造物のうちホワイト・タワー White Tower と聖ヨハネ礼拝堂 St. John's Chapel である。ガンドルフはウィリアム二世に大きな影響を与えた。彼の死は当時カンタベリの大司教であり、またスコラ哲学の父ともいわれるアンセルムに看取られた。



- 13) または William de Corbeil, William de Curbuil. フランスのノルマンディ地方の
 コルベィ家に生まれ、生地はパリの南約 27 km, セーナ川とエッソンヌ川 Essonne の
 合流点の Corbeil とされる。生年不明。ルアーンの有名なアンセルム師の下で修業し
 た。後ダラムの司教。1123 年 2 月 18 日から没年の 1136 年 11 月 21 日までカンタベリ
 の大司教。この間 1130 年 5 月カンタベリの聖堂を偉容ある大聖堂に完成し、またマテ
 イルダとスティーヴンの王位継承では 1135 年 12 月 22 日、ウィンチェスターでステ
 ーヴンに授冠している。本性優柔不断であった。
- 14) または Arnulf. 1040~1124.3.15. フランス生れのベネディクト修道士。ベック
 修道院に入り、こゝでランフランクスの教えを受け、またアンセルムを兄と仰いだ。
 1070 年既にカンタベリ大司教となっていたランフランクスの薦めで英国に渡った。
 1107 年アンセルムの推薦でピーターバラの司祭に昇進し、こゝでも彼はカンタベリに
 おけるのと同じように美しい建物を教会堂に与えたが今は焼失している。1114 年 9 月
 19 日本人及び仲間の意向に反してロチェスターの司教に任ぜられた。彼がこゝの教会
 の法令・教義を集めて著わした *Textus Roffensis* は有名である。
- 15) Raphael Holihshed (または Hollingshed). ca. 1520 ~ ca. 1580. 英国の年代記作
 者。多分ケインブリッジで教育を受け、初めは聖職者であったらしいが、間もなくロ
 ンドンに出て職業的翻訳者となり、年代記作成の仕事に取りかゝった。*The Chronicles
 of England, Scotland, and Ireland* という膨大な年代記を編したことで有名である。但
 し、彼自身が直接書いた部分は英国の部だけで、他の部分は他人の筆、あるいは翻訳
 から成るといわれている。彼の死後この年代記は更に John Hooker の手で加筆され
 た。シェイクスピアの作品の中 *King Lear*, *Macbeth* など数篇はこの年代記を元に書
 かれた。
- 16) Ecgberht, Ecgbryht と綴られる。ca. 775 の生れとされる。802 年からウェセッ
 クス王であり、829 年からはイングランド統一王となった。若い時マーシア王国のオッ
 ファや養子たちに追放されて西ローマ皇帝でフランク王のカルルー世(大帝) Karl (英
 語では Charlemagne) の宮廷に数年間とどまった。帰国してウェセックスの王となり、
 更にブリトン人をコーンウォールで破って、ケント、サリ、サセックス、エセックス、
 イースト・アングリアなど主としてイングランドの南部海岸地方を統一した。これが
 世にいうエグバートのイングランド統一という偉業であった。37 年と 7 ヶ月間の治世
 を終えて 839 年 (*Anglo-Saxon Chronicle* —— 次注参看 —— は 836 年とする) に亡く
 なった (注 26 の附図参看)。
- 17) Alfred the Great. 生年は 848 年か 849 年。没年は更に諸説があつて 899 年、900
 年、901 年のそのいづれかの年の 10 月 26 日または 28 日とされる。ケント及びエセッ
 クス王エゼルウルフ Æthelwulf の第 5 子として多病・多感に生れた。4 歳頃に 1 人で、
 また 855 年頃には父王と共にローマ法王の下に赴いている。871 年、邪悪な兄たち 3 人
 のそれぞれの短い治世を継いで若冠 22 歳でウェセックス王となったが、即位前からそ
 の生涯は侵略者デン人との戦争に明け暮れて陣中で過すことが多かった。戦況は不

利ながらも878年遂にデーン人の首長グットルム Guthorm (またはグズルム Guthrum) を破り、ウェドモア Wedmore で和を結び、デーン人のウェセックスからの撤退とグットルムのキリスト教への改宗を盛り込んだアルフレッド＝グットルム協定を締結した。これによりグットルムはイースト・アングリアの王に封ぜられた。

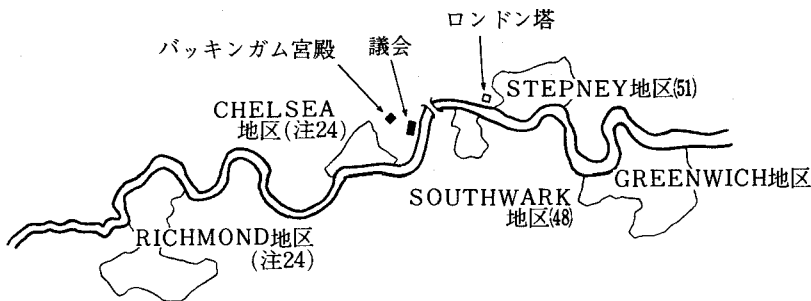
勇気に満ちた武将であると同時に賢明なアルフレッド王は外冠に備えては海を守ることの必要を痛感して海軍を創設するなど兵制を改革した。また戦陣で過すことの日が多かったにも拘らず学問を奨励し、各地の詩寺に命じて国史を編纂させ、自らも執筆者となった。これが今日貴重な年代記 *Anglo-Saxon Chronicle* である。この他にも多くのラテン書を英訳させ、これについてもまた自らもその訳者となった。またアングロ・サクソンの諸法律を集大成させるなど文武両道に卓越した王で「大王」の名を有する唯一の英国王である。この王が戦いに敗れた若い日の挿話は広く知られている(注26の附図参看)。

- 18) デンマーク語でクヌード Knud。英語では Canute ともいわれる。ca. 995～1035, 11, 12。治世の初めは残虐であったがその後有能にして寛大な君主となり教会の保護にも当たった。この王についての伝説・逸話は多い。
- 19) William Hamo Thornycroft。1850.3.9～1925.12.18。両親と共に有名な彫刻家。父 Thomas の傑作はウェストミンスター橋の西にあるイケニの女王ボウディッカの像である。
- 20) またはケンワルフ。Coinwalch, Kenwealh とも記される。672年頃の没。父キネギルス Cynegils を継いで643年西サクソンの王となる。異教徒で、妻はマーシア王ペンダ Penda の妹であったが、これと離婚したことによりペンダによって追われイースト・アングリアに亡命した。645年といわれる。647年または648年キリスト教に改宗して王位を回復し、こゝウィンチェスターに St. Peter を祀る教会堂を建てた。そうしてガリア生れでアイルランドから来た高位聖職者(司教の身分を有していたと思われる)のアギルベルト Agilberht を650年こゝの司教に任じながら、662年(660年ともいわれる)王は勝手に国を2つの司教区に分けて、自分と同じサクソン語を話すウイニ Wini という司教を密かに連れてきて司教座にすえた。アギルベルトはこれを不満としてその職を辞して去った。アギルベルトは664年のウィットビィのシノドに列席し、666年にはロンドンの司教となり、その後パリ市の司祭となって680年10月11日に没している(注26の附図参看)。
- 21) William of Wainfleet ともいわれる。ca. 1395～1486. 8, 11。元の名は Patyn。大法官(1456～60)。ウィンチェスター・コレッジとオックスフォードのニュー・コレッジ出身。1458年オックスフォードにモードリン・コレッジ St. Mary Magdalen College を創設した。この学寮はウィカムが創設したニュー・コレッジを範として建てた貴族的で、最も美しい学寮で、最近亡くなったエドワード八世(退位後のウィンザー公)も皇太子時代こゝで学生生活を過され、また秩父宮も遊学された。本劇の主要人物トーマス・ウルジイ枢機卿はこゝの卒業生である。因みにモードリン・コレッジの名は

ケインブリッジにもあるがその方は Magdalene と綴る。

ワンスレットはヘンリー六世の寵臣でもあってバラ戦争では1459年ヨーク家(白バラ)に対立したが、1461年エドワード四世に服した。しかし彼は自ら1470年にヘンリー六世をその幽閉先のロンドン塔から救い出したが、王が1471年5月エドワード四世に暗殺(?)されると再びエドワード四世に臣従するなど極めて曲折に満ちた身の在り方であった。彼の肖像は今日 Eton College Chapel の外面壁に見られる。

- 22) *Time* の1971年7月15日号をみると英国のパブリック・スクールのうちで最も有名なものを特に 'Clarendon Schools' と称するが、その中でもイートン校、ハーロ校、ウィンチェスター校及びラグビー校の4つが特に出色であるらしい。
- 23) Herbert George Wells。1866.9.21 ~ 1946.8.13。英国の小説家・思想家。徒弟奉公をしながらの独学であったが、今日のロンドン大学の前身の Normal School of Science を出た。科学小説を多く書いたが、次第に現代文明の批判に向かい、歴史書を書く一方、多くの小説も書いたが芸術的ではなかった。本文の引用は *A Short History of the World* (1922) からのものである。
- 24) Anna von Cleve。1515.9.22 ~ 1557.7.16。西ドイツのクレーヴェに生まれる。父クレーヴェ公ヨハン Herzog Johann von Cleve が新教徒の指導者であったので当時大司教補佐の Cromwell Thomas Cromwell の進言で政略結婚としてヘンリー八世の妃に迎えられ、1540年1月グリニッジ離宮で式が挙げられたが、その容貌が王の好むところでなかったため同年7月に離婚された。ヘンリー八世の他の妃たちと全く違って終生英国に住むことを条件にして年金4,000ポンドを与えられ、その余生を主としてロンドン市内のリッチモンド Richmond で過したが、時々宮殿にも参上したり、毎日毎日衣裳を取りかえるなど安楽な生活を送り、ロンドン市内チェルシア Chelsea で没した。ウェストミンスター・アビィに葬られている。



- 25) Catherine Howard。ca. 1520 ~ 1542.2.13。イングランドの名門貴族ハワード家に生まれた。クレーヴズのアンと離婚したヘンリー八世と1540年7月28日密かに結婚し、8月8日王妃として公認されたが、生来浮気で、結婚前の愛人との関係と結婚

後の不行跡のために 1542 年 2 月 10 日ロンドン塔に幽閉され、13 日に処刑された。

- 26) Oswald, ca. 605~641. 聖人。ノーサンブリア王。ディラ Deira の王アエレー Aelli の娘アクハ（またはアッカ）Acha とバーニシア Bernicia の王エゼルフリッド Aethelfrith との間に生まれた。しかし 616 年アクハの兄エドウィンはエゼルフリッドの後を襲って王位に就いたため、オズワルドは弟のオズウェと共にノーサンブリアをのがれてアイオーナで数年を過ごした。そうしてこの島でキリスト教に改宗した。633 年オズワルドは北ウェイルズのグウイネッド Gwynedd の王カドワロン（またはキャドウォラン）Cadwallon (Caedwalla, Cadwalader) を今日でいえばヘ



クサム Hexham 付近のラウリ・ウォーター Rowley Water に当るデニセスブルナ Denisesburn の近くの川で殺してその権勢を示した。このカドワロンは自らキリスト教徒の名をもち、キリスト教徒であることを宣言していたが、その心も行いも共に野蛮人と変わることなく、632 年エドウィンを今日のドンカスターのハトフィールド Hatfield とされるヒースフィールド Heathfield で殺し、更に 634 年夏にはエドウィンの従兄弟のオスリック Osric をヨークに襲って殺し、また同年オズワルドの兄でバーニシアの王であったエアンフリッド Eanfrith をも殺した無慈悲にして凶悪な暴君であった。

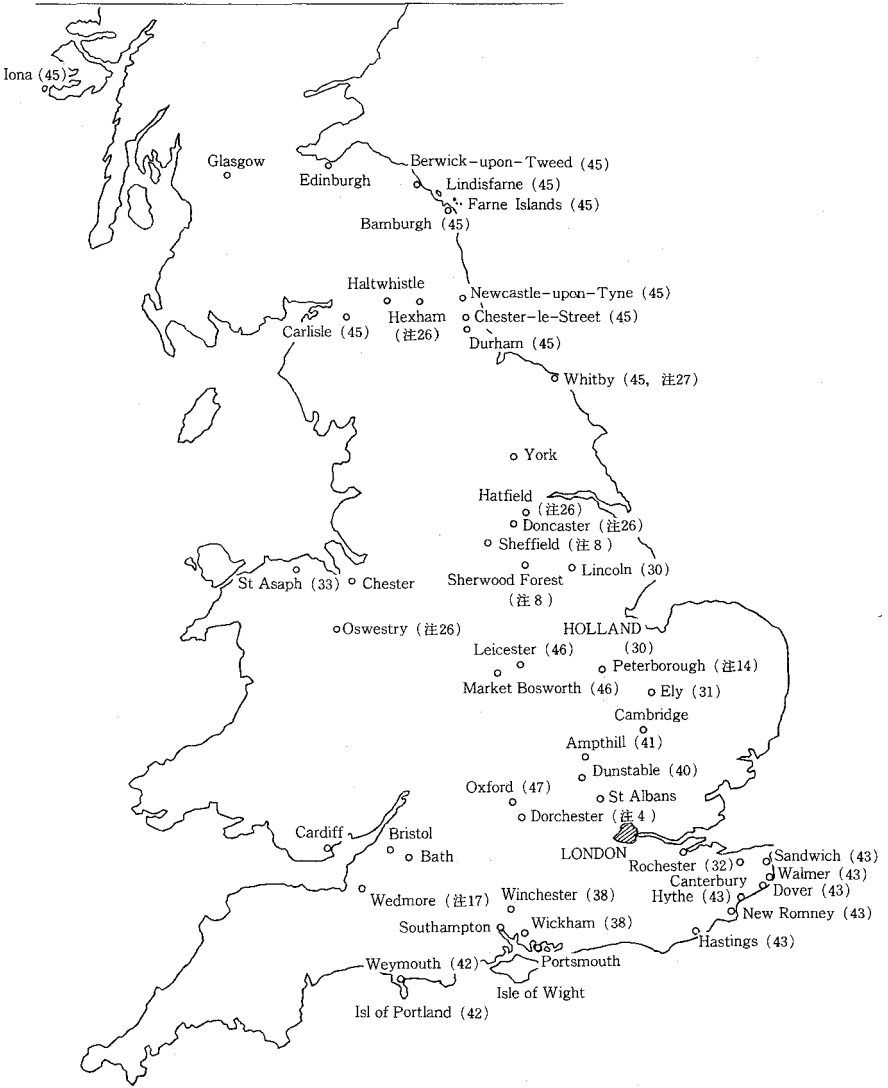
ノーサンブリアの王となったオズワルドはバーニシアとディラを統合した。彼は統治中特筆すべき最大のことは本文に述べたようにノーサンブリアに(ケルト系)キリスト教を導入したことであった。彼は 641 年異教のマーシア王ベンダと戦って今日シュロブシャーのオズワストリ Oswestry という地、当時マーザーフィールド Maserfield で敗死した。因みにこのオズワストリの地名はこのオズワルド王の名に由来するもので、S. Oswald's tree から発したとされる。tree とは木の十字架の意と考え

られている。聖人に叙せられ、祝日は8月5日である。

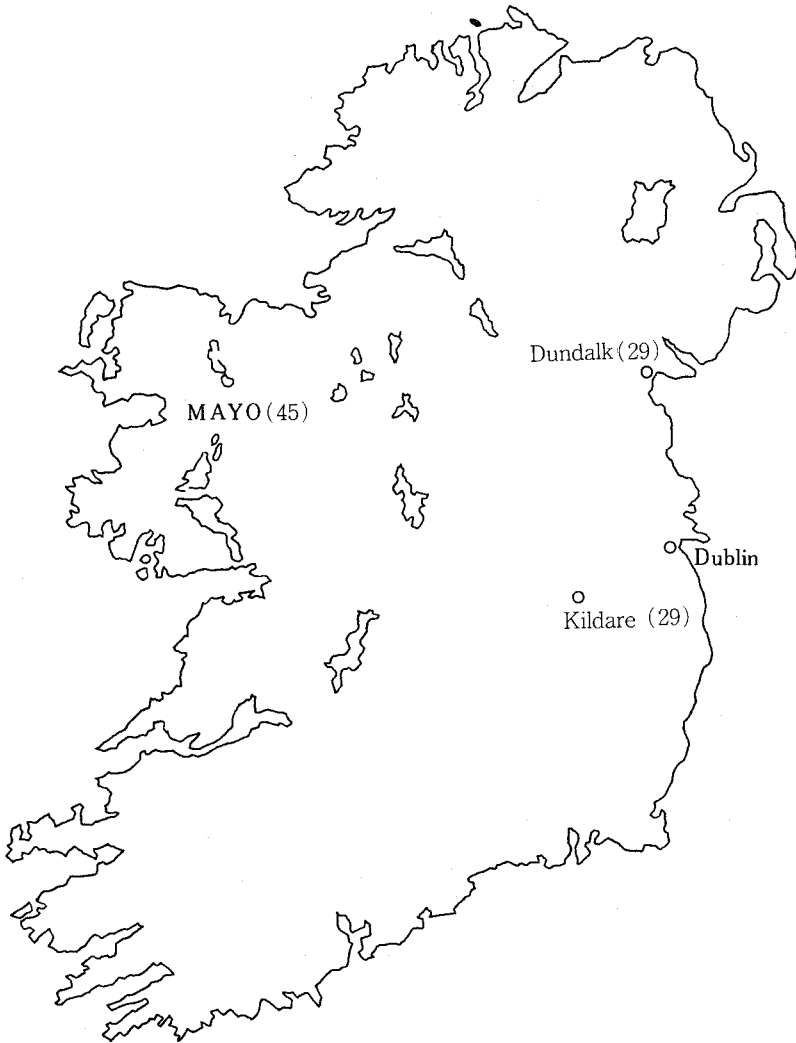
- 27) *Bede's Ecclesiastical History of the English Nation*, III - V.
- 28) *Ibid.*, IV - X X X.
- 29) 石田憲次, 『英文学風土記』, p. 175, 研究社, 昭47年。
- 30) Philip Henslowe.? ~1616. エリザベス朝の興行主・劇場所有者。ローズ座 The Rose Theatre, ポープ座, スワン座, フォーチュン座 The Fortune Theatre を経営した。彼が1592年から1603年まで書き記した「日記」*Henslowe's Diary* は興行した劇団, 上演作品, 収入, その他公演にともなった諸々の経費の詳しい記録——日記といっても実は会計簿に近いものであって演劇史上貴重な資料である。
- 31) Hippolyte Adolphe Taine. 1828, 4, 21 ~ 1893, 3, 5。フランスの哲学者・歴史家・批評家。彼は, 人間及び文学作品は人種 *race*, 環境 *milieu*, 時代 *moment* の3つの要素によって規定されるとする決定論的・唯物論的思想を展開した。『英文学史』*Histoire de la littérature anglaise* などの大作を残した。
- 32) 石田憲次, 『英文学風土記』, pp. 41 ~41, 研究社, 昭47年。

附図には知り得た範囲の大方の地名を載せた。地名の後の括弧内の番号は本文の項目番号及び注の番号である。

附图 1



附図2 アイランド島



附図3

